

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

10月の日経平均株価は下落しました。エネルギー価格等のインフレ継続、各国金融政策の縮小観測、中国不動産セクターに対する懸念から下落しました。しかし、その後円安が進行したことや米国株が良好な企業決算を受けて上昇したことから、日本株に対するセンチメントも改善し下げ幅を縮小する展開となりました。

02 日本債券市場

10月の日本長期金利は上昇（価格は下落）しました。資源価格の高騰が継続したことや海外金利の上昇が影響しました。また、月末に衆院選を控えていたことから財政出動による国債需給悪化懸念などが意識され、月を通して金利は上昇しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

日本の物価動向について企業間物価は高水準で推移しています。一方でコア消費者物価は低位に留まっています。現時点では、企業の価格転嫁が進んでいないことが確認されます。

日本の企業センチメントについて、直近まで低調に推移していたサービス業は、コロナ感染者数の減少を受けて足元では改善傾向が見られます。製造業は、供給制約により一時的に減速する懸念が燃っています。

今後の見通し

01 日本株式市場

日本株式相場は、新型コロナウイルス感染者数の減少による経済活動再開および政府の経済対策の効果により堅調な推移が見込まれます。

ただし、輸入物価の上昇や生産に関わる部品などの供給制約を受けて一時的に企業収益が下振れするリスクに注意が必要です。

02 日本債券市場

海外金利主導で変動性の高い相場展開が続くことが見込まれます。国内におけるコア消費者物価（生鮮食品およびエネルギー除く）は低位での推移が続いていることから、国内金利上昇幅は限定的と考えます。



(注) データ期間：2018/11/1～2021/10/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

10月のS&P500指数は上昇しました。高インフレと経済回復の綱引き状態が継続する中、コロナの経口薬の使用に向けて進展があったことや、好調な企業決算を受けて最高値を更新しました。月末には、1.75兆ドル規模の経済対策に対する期待から一段高となりました。

02 米国債券市場

10月の米国長期金利は上昇（価格は下落）しました。原油高や株価の上昇、FRB要人の金融緩和縮小に関する発言を背景に、一時1.7%まで金利は上昇しました。月末にかけては供給サイドのボトルネックに起因した高インフレを背景に短中期金利は上昇しました。一方で長期金利は、経済成長減速懸念が生じたことから低下しました。（イールドカーブのフラットニングがみられました。）

経済金融環境

01 米国経済環境

米国の物価動向は、原油など資源価格の高騰が継続し高止まりしています。

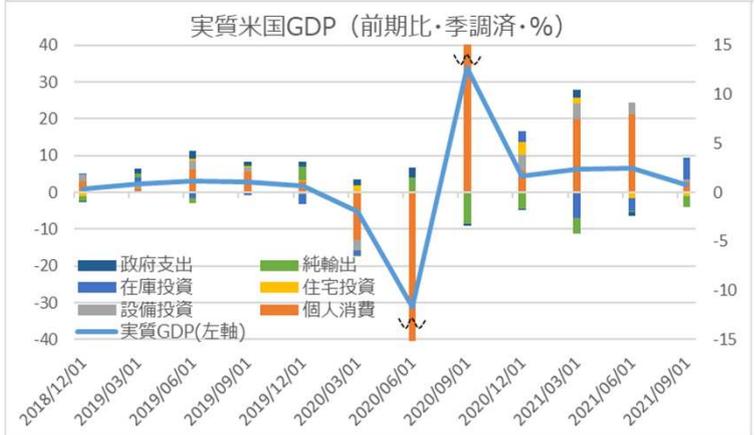
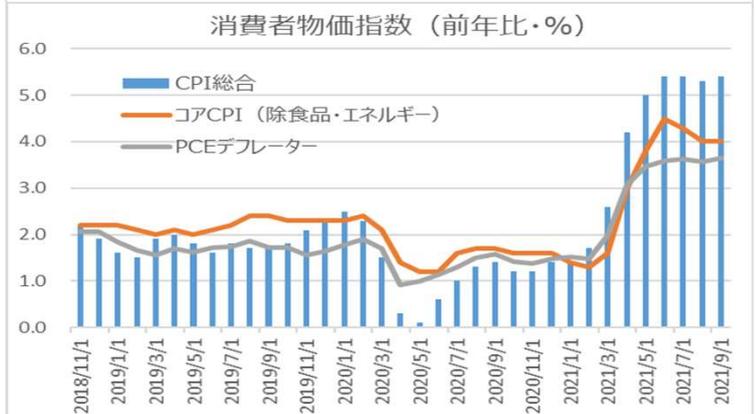
米国の2021年7-9月期実質GDP成長率は前期比年率+2.0%に留まりました。新型コロナウイルス増加などによる個人消費の減速や供給制約が影響しました。

今後の見通し

01 米国株式市場

各国金融政策が緩和縮小に動く中、物価などの経済データを睨みながら神経質な展開が継続すると見込みます。

新型コロナウイルスの感染者数がピークアウトする中、経口薬の年内実用化が実現されれば、本格的な経済活動の再開期待から底堅く推移すると考えます。



(注) データ期間：2018/11/1～2021/10/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

02 米国債券市場

短中期金利は、インフレ動向等金融政策の正常化の判断根拠となるデータに振られる展開が継続すると見込みます。一方、長期金利は、金融緩和縮小や供給障害継続など景気への影響懸念から上昇余地は限定的と考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDアドバイザーが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。